

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 8 日

所 属： 獣医学部 動物応用科学科

氏 名： 池田 裕美 職位：講師

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

動物応用科学科の動物行動管理学研究室に所属しており、2023 年度後期からの着任であるため本年度は動物の福祉に関する科目を主に担当している。動物行動学および動物栄養学について組み合わせた動物行動栄養学を専門としているため、これらの分野を交えながら、動物が心も身体も健康に過ごしていくために何が必要であるのか考えながら教育することが責任であると考えている。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
動物福祉論	動物応用科学科	必	2	135
動物行動管理学実習	動物応用科学科	選	3	84
基礎ゼミ	動物応用科学科	必	1	178

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

卒業後に進む分野として多様な選択肢がある中で、“自ら考え、解決策を導き出すことでさらにより良い状態にしていく”ということがどの道に進んでも大事なことではないかと考えている。また、一つの考え方に固執することなく、柔軟な発想力を持つ人材を育成したいと考えている。物事を考える際に一方向のみからの考え方ではなく、様々な側面から考えた上でどうなのか、というところまで意識してもらいたい。これにより、今まで当たり前に思われてきたことに捉われず、新しい価値観を作り上げていく人材を育成したい。新しい価値観が生まれることで、ヒトと動物の双方にとって生きやすい社会を作り上げてほしい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育や研究において重要視していることは、“実際に自分の目で見て触れて確かめた上で、自分の力で考える”ということに身を付けてもらうことである。ただ答えを伝えるのではなく、考えるにあたり重要なポイントを提示し、そこからどのようにそれぞれをリンクさせていけるのか自らの力で考察を導いていくように指導している。自ら考え、問題の解決策を導き出しつつ新しい発見を続けられるような人材の育成を目指し指導を続けていきたいと考えている。そのために、「まずはあなたがどう考えるか？」と問いかけることを意識している。

アクティブラーニングについての取組

講義の最終コマにおいて、これまでの講義を踏まえた上で発展課題を出し、ICT ツールや周囲の複数人で考え方をまとめてもらい、発言する機会を設けた。これにより、自分自身のみの考えだけではなく、周囲の意見を聞きまとめるという力を身につけてもらった。

ICT の教育への活用

ICT ツールとして「imakiku/sugukiku」を導入し、講義担当の際に活用している。リアルタイムアンケートツールであり、投票形式、投票＋記述形式、記述形式と選択可能であるため、質問内容に応じて適宜出題方式を変更することができる。スマートフォン等を用いて QR コードを読み込んでもらうことで、各自入力可能である。講義中は匿名の状態で全員が様々な課題に対する意見や考え、質問などの発言を共有することができる。また、こちら側の集計では誰がどのような発言をしたのか、どの選択肢を選んだのかが記録されるため、誰が講義へ意欲的に参加しているか把握しやすいというメリットがある。

一方で、学生さんからの指摘によりデバイスにより相性が良くないことも判明したため、今後はそのような状況でも参加できるような代替方法を模索していきたい。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

可能な限りスライドは文字を少なく、一目で見てわかりやすいものを提示できるように工夫している。写真や動画を多用することで、文章では伝わらない部分が理解しやすくなるよう補っている。また、最近のニュース記事などを引用し具体例を挙げることでより興味を惹いてもらえるような内容作りを心がけている。

②学生の理解度の把握（A）

理解度については、振り返りテストや最終レポートとして講義全体の内容を踏まえた課題を設定することで把握することに努めた。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

自学自習については予習用に穴あき講義資料を、復習用に講義動画を Azamoodle に掲載している。しかし、余裕を持って掲載できていないため、改善する必要がある。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

学生さんからの質問については、アンケートツールの最後に「質問や意見、その他何かあれば自由に記入してください」という項目を設定しており、担当回毎に質問を受け付けている。また、質問に対する回答は次回の担当回の際に質問への回答コーナーを設けており、内容を全員と共有している。さらに、「その他何かあれば自由に」と記載することで、より気軽に記入できるイメージとした。これにより、質問以外にもどう思ったかなど記載してもらえることが増え、学生さんの考えがより伝わるようになった。また、最終回の課題は google form を用いて実施したが、その際に感想や意見を任意で回答してもらう欄も作成した。別途、メールや対面での質問も受け付けておりその都度対応している。

⑤双方向授業への工夫（A）

上述の ICT ツールを用いて意見を聞きながら進めているため、一方的な授業にならないよう心がけている。

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

2023 年度後期から着任のため該当しない。

②①の結果はどうでしたか。

2023 年度後期から着任のため該当しない。

③②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

授業評価の結果が開示された際には、2024 年度前期の講義に積極的に取り入れ活用したい。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

基礎的な内容を学んだ上で、中間にテストを行いどの程度把握できているか実感してもらう。最後には、これまで学んだ内容をもとに応用力を試すような課題を出すようにしている。想像力や調べる力が必要なものや、身近なニュースから考えさせられるような課題を扱うことで発想力を鍛えてもらい、答えのないものを考えてもらう。またその考え方は身近なところに繋がり役立っていくということも意識してもらう。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学内実施の学生授業評価はまだ届いていないが、講義の際に用いたアンケートツールの意見部分や、最終回に提示した課題を google form を用いて作成し、最後に感想を募ったところ、以下のようなコメントが複数得られた。理念としている様々な考え方を取り入れ、一つの考えに固執しないことを意識してもらう内容にできたのではないかと考えられる。また、最終回の課題提出時における感想や意見は任意回答であるにもかかわらず約 74%であり、最後まで積極的に参加してもらえたことが窺える。一方で、抑揚をつけた方が良いとのアドバイスを他の先生からいただいたため、今後は話し方にも意識して改善していきたい。

- ・質問に対する回答が講義の最初にあったことで理解が深まった。
- ・スライドが見やすく、聞きやすい声でした。
- ・新しいアンケート形式の講義はととても楽しく講義に参加しているという実感がありとて

も良かったです。他の人の意見に新たな気づきや発見があり楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。

- ・講義スライドがとてもわかりやすく講義の内容をよく理解することができました。
- ・ sugukiku はいろいろな人の意見を閲覧しながら先生がそれにリアルタイムで答えてくださるので、集中できて面白い授業でした。
- ・声を発することでの授業参加は抵抗感があるが、オンラインの参加は抵抗感なく楽しめ、自分の意見を言うことができ、楽しかった。
- ・この授業はとても興味深く、毎授業楽しく参加することができた。動物福祉論というテーマは一つの正解がない為多くの人との意見交換が授業を深めるために必須であると感じ、授業内で sugukiku というツールを利用してリアルタイムで意見交換できる授業スタイルがとても良かったと感じた。授業内で新しい考え方を得ることができただけでなく、考える癖をつけることができたことや一人で考えて結論を出す前に他の人の意見を聞いて議論を深めることの重要性を学べたことが良かったと思う。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

FD 研究会が開催される際には参加している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

短期的な目標としては、本年度は後期のみの担当であったため、前期の担当科目である「動物栄養学」および「動物管理学」も含めて前期と後期を通して進めることで学生さんの理解度や講義への反応を引き続き把握していくところから始めたい。

長期的な目標としては、現時点では受け持っていないが、2024年4月から卒業研究を経て卒業する学生さんや院への進学を考える学生さんを担当していくことになるため、講義のみではなく研究活動を通しての指導が入ってくる。そのため、研究を行う上で重要な考え方や、学生さん自身の発想力を大切にしつつ教育や研究活動を推進したい。どのような考えに至っているのか、ディスカッションにより確認していきたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

- ・配布資料
- ・アンケートツールの回答結果
- ・レポート課題
- ・google form の回答結果